

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

非核の政府を求める石川の会第二十三回総会

と き 六月二十五日(土)十時～十二時
ところ 近江町いちば館四階研修室一
議 題 二〇一〇年度活動報告、会計報告
二〇一一年度活動方針、予算案
二〇一一年度役員選出

記念講演

演題 二十一世紀国際社会における危機と挑戦

― 北アフリカ・中東情勢を中心に ―

講師 定形 衛さん

名古屋大学法学部教授

元 金沢大学法学部教授

元 非核・石川の会事務局長

非核の政府を求める石川の会

第二十三回総会議案

東日本大震災の被災者救援と

災害復旧を強力に推進を！

核兵器廃絶国際条約締結の

交渉を求める署名も強力に！

事務局

2

金沢市京町2

石川民医連労働組合気付

el 2

郵便 替

非核 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

一 東日本大震災被災者救援・災害復旧、「原発ゼロ」をめざして

(1) 三月十一日、十四～五mを超える大津波が東日本を襲いました。

三ヶ月後の六月十日現在、死者一万五四五五人、行方不明八〇九五五人、合わせて二万三五〇〇人に達しています。避難所に暮らす人は、まだ九万一〇九人もいます。

政府による復旧事業の促進、生活、営業再開などへの早急な支援が必要です。

非核・石川の会に、十五人の方より五万六五〇〇円の救援募金が託されました。全額を非核の政府を求める会を通じて、岩手・宮城両県対策本部に手渡ししました。

(2) これに続いて、東京電力福島第一原発で大事故がおこりました。原発の炉心溶融全燃料落下、大量の放射性物質拡散などの重大事故です。

日本科学者会議をはじめとする市民団体や日本共産党は、三十五年も前から繰り返し原発の危険性を指摘してきました。

原発の「安全神話」を流し続け、全国で五四基(稼働中十七基)も建てたのですから。

静岡県の中部電力浜岡原発は、予想される東海大地震の震源域の真上に建てられており、危険この上ない状況です。東電・福島第一原発の事故発生後、政府が中電・浜岡原発の稼働停止を要請したのも当然ことです。

石川県の北陸電力志賀原発も一時停止中ですが、安全性の保障がないままに稼働させるべきではありません。

マスコミ各社の世論調査によれば、原発の縮小、廃止を求める人が六〇%から七〇%に達しています。

(3) 原発がなければ電力不足になって大変だ」という人もありますが、心配ありません。

電力に占める原発の割合が三〇%というのは年間の総発電量に占める割合です。原発は出力調整がきかないため、原発を最優先で稼働させてきた結果です。いまでも火力・水力発電所の稼働率は四〇%程度。大企業の自家発電能力(約六〇〇〇万k

W)や揚水発電能力(二三〇〇万kW)などもあります。夏のピーク時に必要な発電量も十分賄えます。

太陽光・地熱・海洋風力・山間の急流を利用したダム無し水力発電・バイオマスなど開発すれば必要な電力は十分確保できます。

ドイツでは二〇一〇年までに発電量の一六%が再生可能エネルギーとなり、二〇二〇年までに三五%、五十年までに八〇%にする戦略目標をたてて取り組んでいます。

六月六日には、二〇二二年までにドイツの原発十七基を全廃する法案を閣議決定。その行程表も発表されています。

また、再生可能エネルギーへの切り替えで一億二〇〇〇万tのCO2の削減や年間三万人の雇用増につながったことも発表されています。

「原発ゼロ」を求める署名運動や講演会開催などに取り組み、危険な原発の実態を訴えていきましょう。

二 すべての国の政府に核兵器禁止条約の交渉開始を求める署名運動を

(1) 昨年五月三日〜二十八日まで、ほぼ一カ月にわたって二〇一〇年度核不拡散条約(NPT)再検討会議が開かれ、一八九カ国が参

加しました。

「私たちはすべての国の政府に、すみやかに兵器禁止条約の交渉を開始するよう求めます」と訴えながら、核兵器全面禁止アピールの署名運動に取り組みました。

石川県から二十一人、全国から一五〇〇人の代表団が渡米。石川県の四万〇七〇〇筆を含めて六九〇万一〇三七筆(最終集計は七五九万六一〇九筆)の署名を提出。多数の国連関係者から「市民(署名)運動が政治を動かした」と称賛されました。

これが力となつて、核不拡散条約(NPT)再検討会議は十年ぶりに最終文書を選択。

二〇〇〇年の再検討会議で「核兵器の廃絶を実現する」という核兵器保有国の明確な約束」を再確認。六四項目の行動計画を確認しました。

(2) 十二月八日、国連第六五回総会の本会議は新アジェンダ連合提出の決議案「核兵器のない世界に向けて」核軍備撤廃の公約の実行を加速する」が圧倒的多数の支持を得て承認されました。賛成一七三票、反対五票、棄権五票。反対は米、仏、イスラエル、インド、北朝鮮です。

(3) 米オバマ政権はネバダ州の地下核実験場で未臨界核実験を行いました。核不拡散条約の精神に違反するものであり、非核・石川の会も抗議文を送付しました。

(4) 二〇一〇年原水爆禁止世界大会(広島市)

には石川県より四十一人が参加。非核石川の会は川本浩平事務局次長を送りました。

十二月開催の日本平和大会(佐世保市)には松井和夫常任世話人を派遣しました。

(5) 昨年十一月十日の「朝日新聞」全国版一ページ全段を使い、沖縄・普天間基地の辺野古移設にも、嘉手納基地への統合にも反対し、沖縄にも日本にも基地は不要とするカラー印刷の意見 広告を掲載しました。

石川県では非核・石川の会を含めて二十一人、全国で二九七四団体と二五九四人の個人が賛同しています。

三 大連立で憲法改悪への動き 九条の会や平和団体と協力、断固阻止を

六月七日民主党・自民党・公明党・国民新党・

みんなの党・たちあがれ日本などの改憲派議員約一〇〇人が「憲法九十六条の改訂目指す議員連盟」設立総会を開きました。

憲法九六条は、改憲を発議するには衆参各院の「三分の二」の賛同が必要なことを明記しています。この条件を緩和し、衆参各院「過半数」で発議出来るようにすることを狙っています。

五月三日には、「九条の会・石川ネット」が主催した「輝け九条! 許すな改憲石川県

民集会」が開催されました。

発足七周年を迎えた「九条の会」は六月四日東京日比谷公会堂で講演会を開催、二〇〇〇人が参加しています。改憲の動きを止めるには、九条の会や平和諸団体と協力し、さらに大きな運動が必要です。

四 政府に「非核日本宣言」求める意見書 県内四市三町が採択

(1) 政府に「非核日本宣言」を求める意見書を採択した自治体は左記の四市三町（三十五％）です。

珠洲市、羽咋市、かほく市、白山市、中能登町、津幡町、内灘町

(2) 六市八町（七〇％）の市長・町長は平和市長会議に参加しています。

○ 珠洲市、輪島市、七尾市、金沢市、白山市、能美市

○ 能登町、穴水町、志賀町、中能登町、津幡町、内灘町、野々市町、川北町

五 「非核・石川の会ニュース」は 編集委員会で制作、集団体制に

「非核・石川の会ニュース」の発行は長年事務局長が責任を持ち編集、印刷発送は事務局で行なってきました。

個人責任の編集体制から集団体制への切り替えが長年の課題でした。

今年一月より、五人の編集委員会が発足毎月一回編集会議を開き、「内容豊かなニュース」を目標に編集と制作、また次号の編集方針と原稿依頼の分担などを行っています。

印刷と発送は事務局で行っています。

ニュースの題名も六月発行の第一五五号より県民に親しんでいただけるように「非核・いしかわ」に改称しました。

六 財政報告

別紙で会計決算報告と予算案の提案をします。



県内の平和大行進・能登コース初日は 40 人が参加して輪島朝市通りで行われた

二〇一一年 国民平和 大行進 県内初日、輪島市内を行進

内藤晴一郎

石川県の二〇一一年国民平和大行進は初日の六月十二日(日)午前十時、輪島市の善龍寺で出発式をしました。国民平和大行進石川県実行委員会の内藤事務局長が「今年の国民平和大行進は、核兵器廃絶とともに、東日本大震災復興支援、自然エネルギーの転換を訴えて歩きます。北海道―東京コースは、十一日岩手県入りをしました。石川県は被災した東北と同じ日に行進することになります。連帯して元気に歩きましょう。」と挨拶しました。

笠邦夫輪島市議は今日届いたという幟旗を掲げ、脱原発、自然エネルギー転換を訴え、脱原発署名を呼びかけました。

屋名池輪島革新懇事務局長は、東北岩手県へボランティアで行った経験を語り、東日本大震災復興支援を訴えました。

石川県の国民平和大行進の第一日は、観光客でにぎわう、輪島朝市通りを、ハンドマイクで、「石川県の平和行進です。核兵器をなくしましょう。署名にご協力お願いします。」と訴えて歩きました。朝市のおばさん



今年の平和大行進は東日本大震災の復興支援も掲げて取り組まれている

たちに予め署名用紙に簡易鉛筆をつけて、配っていただいたのが成功し、行進が通ると「書いてあるよ」と言って署名をつぎつぎと渡してくれました。朝市通りでの署名は一六一筆、二二〇〇円の募金が寄せられました。

行進は、街宣車を先頭に、約四〇人が核兵器廃絶を訴えて、商店街、高校通りを経て、市役所につきました。課長さんより、輪島市長のメッセージとペナント、協力金、署名一九八筆、一辺のペットボトルにぎっしり貨幣の詰まった被爆者援護連帯募金を頂きました。

(石川県原水爆禁止協議会事務局長)

二〇一一年原水爆禁止世界大会に
非核・石川の会の代表派遣を！

派遣費用の募金をお願いします

広島と長崎で原爆投下、六十六年目の夏
「核抑止論」を超えて
原水爆禁止世界大会を成功させよう

今年の原水爆禁止世界大会は長崎市で、
八月七日(日) 開会総会

八月(月) フォーラム・分科会・動く
分科会

九日(火) 閉会総会
の予定で開催されます。

石川県代表团として参加します。
参加希望の方は事務局までご連絡下さい。

*代表派遣に必要な費用は約十一万円です。
*郵便払込用紙を同封しますので、ご活用下さい。

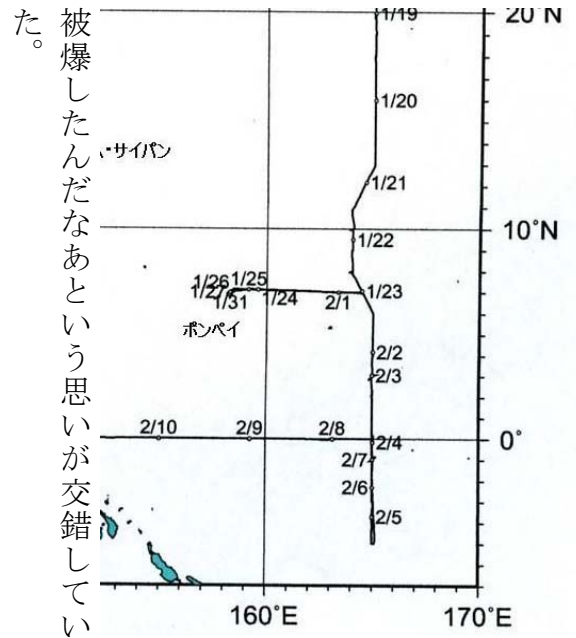
ビキニ環礁を航海して

羽咋診療所・横山 隆

二〇一〇年一月八日より二月二十八日まで、私は神戸海洋気象台の観測船「啓風丸」(二四〇〇トン)に船医として乗船した。八日に神戸港を出航し、紀伊水道を經由して潮岬沖に出てからひたすら東進した。千葉の銚子沖から南東に進路を変えて、北緯二十七度、東経一四七度からは真東に向かい東経一六五度に達した後、真南に向かった。このあたりの太平洋は、冬になると時化るようで、出航直前にパーサー(事務長)より、「ドクターは、どうして冬に乗られるのですか？結構シケますよ」と脅されていた。

一週間ほど揺れのひどい時期があり、気象庁の最新船の乗組員にも船酔いするものが出てきた。私は眠くなることはあっても食欲がなくなることは無かった。最初の寄港地である、ミクロネシア連邦のポンペイ島には一月二十七日に到着した。その一週間前の一月二十日頃、この航海では初めて海鳥がマストにとまっているのが目に入った。

近くに陸地(島)がある証拠なのでブリッジに上がり、チャート(海図)を見るとビキニ環礁の西側に来ている。何も見えない大海原を眺めながら、こんなに遠くまで来てしまったという想いとこの海域で第五福竜丸は



事実上の立ち入り禁止区域が存在

このとき、航路は右図のように微妙に西に移動し再び東経一六五度上にもどっていた。この西にずれた理由を航海士に聞くと、米国のミサイル訓練ゾーンを避けるためとのことであった。チャートでは Hazardous Missile Operation と点線の円弧上に書かれており、ここは事実上立ち入り禁止区域となっている。最近まで、長距離ミサイルの実験場になつており、インターネットでは模擬核弾頭投下訓練の写真が掲載されていた。ビキニ水爆実験による日本漁船などへの被爆など全く忘れたかのような公海上このような区域の存在自体が納得できなかつた。

核兵器廃絶のためにも、ビキニ水爆実験の

被害者となつた第五福竜丸の乗組員を忘れることなく、毎年三月一日にビキニデーを敢行することの重要さを再認識することができた。

被爆者医療の現場からみた

石川県の原爆症認定の状況

城北病院・原 和人

三月十一日東北太平洋沖を震源とする大地震が発生した。東北関東の太平洋岸には大津波が押し寄せ、未曾有の大災害となつた。そして、東京電力福島第一原発も大きな被害を受け、炉心融解が起こり、周囲が大量の放射能によって汚染されている。広島・長崎への原爆投下から六十五年、新たな被爆者が大量に生み出されたことに心が痛む。

原爆による放射能汚染によつて、多くの人々が苦しんできた。これらの被爆者に対する国の支援の主なもの、被爆者手帳と被爆者健康管理手当、特別医療手当がある。被爆者手帳保持者は現在約二十五万人で、医療費が無料となるほか、健康診断を受けることができる。被爆者健康管理手当は、手帳保持者が一定の病気にかかつた場合に支給される

もので、現在二十一人余りに支給されており、月額三三三、〇〇〇円の手当が支給される。一方、特別医療手当は、病気が放射線に起因すること、現に医療を要する状態にあることの条件を満たし、厚生労働大臣が認定すれば、月額十三七、四三〇円の手当が支給される。

これまで被爆者が自らの病気が原爆によつてもたらされたものだとして原爆症の認定を申請してきたが、二〇一〇年以内で被爆し悪性腫瘍以外の被爆者の申請はことごとく却下されてきた。被爆者は全国各地で原爆症の認定を求めて集団訴訟を行った。その結果、ほとんどの裁判で被爆者の勝訴となり、裁判所の勧告に基づき、国と原告団は、二〇〇九年八月六日に「原爆症認定集団訴訟の終結に関する確認書」を交わした。

その後、原爆症に関しては「新しい審査の方針」が明らかにされた。しかし、最近の認定結果は、国は裁判で認められた事実を無視し、裁判では原爆症と認定されたであろう被爆者の認定をことごとく却下している。昨年十月二十五日に行われた認定審査会では、申請七四四件に対して認定三十五件、却下七〇二件、保留七件という結果であつた。

石川県の被爆者は、二〇一〇年三月段階で一一九人、その内、原爆症と認定され医療特別手当を受けているのは、たったの四人のみである。この間、十人の被爆者が認定を却下されている。この中で、私自身、何人かの被

爆者の原爆症認定の医師の意見書を記載したが、全く不当な判断だと言わざるをえない。

一例目の女性は九歳の時、長崎で爆心地から七〇〇mで被爆している。対象疾患は甲状腺機能低下症であるが、自己免疫性甲状腺疾患であるということでは却下された。また、三・五km以内の心筋梗塞は認定の対象になるが、彼女は冠動脈の狭窄を伴う狭心症を有している。心筋梗塞を起こさないと認定されない。

二例目の男性は四歳の時、広島で爆心地から二・二kmで被爆している。彼はウイルス性ではない重症の肝硬変であるが却下された。今日、「新しい審査の方針」で追加された放射線白内障、放射線起因性が認められる（心筋梗塞、甲状腺機能低下症、慢性肝炎・肝硬変）が原爆症と認定されることは稀である。

現在の被爆者の平均年齢は七五歳である。後、数十年すると、被爆者はこの世の中になくなる。国は、その時を待っているように思えて仕方がない。被爆者は、自らの苦しみが、原爆が原因であったと国に認めさせ、二度と、自分たちと同じような苦しみを繰り返して欲しくない、そのために核兵器の廃絶を望んで闘ってきた。

福島原発の放射能汚染は、原爆による被爆者と原発による被爆者の違いはあるものの、再び、放射能の汚染による不安を生じさせた。

それは、原爆による被爆者の悲痛な願いに耳をかさず、内部被爆を軽視し、放射能障害を直接被爆（爆心地から何キロ）しか認めてこなかった国の被爆者医療に対する姿勢の延長線上にある人災ではないだろうか。

石川県での却下状況

A:要治療なし B:放射線起因性なし

場所	被爆状況	年	性	申請疾病	申請年月	理由
長崎	700m直爆	9歳	女	慢性甲状腺炎・骨粗しょう症・多発性脊椎圧迫骨折 (10年10月却下)	06年9月	A・B
広島	2.2Km直爆	4歳	男	肝硬変(10年3月却下)	07年4月	A
広島	1.5Km直爆	3歳	男	甲状腺機能亢進症	08年5月	A
広島	翌日から入市救援活動	19歳	男	結腸癌・早期直腸がん	08年5月	B
広島	翌日・翌々日入市	3歳	男	胃がん・肝硬変	08年6月	A・B
広島	翌日入市	18歳	男	頸椎後韌帯骨化症	08年5月	B
広島	4Km直爆	20歳	男	大腸がん術後(10年8月却下)	08年7月	A
長崎	2Km直爆	20歳	男	放射線白内障(10年7月死亡)	08年5月	B
長崎	2Km直爆	16歳	女	放射線白内障(10年10月却下)	08年7月	B
広島	1.7Km胎内		男	肝硬変	10年8月	B

《連載》対談―狂気の時代（第四回）
再びそれを繰り返さないために

開催 金沢市黒田町 れとろぎやらりい
柳心庵にて 二〇一〇年六月七日
出席者

蒞 昭三：城北病院名誉院長、反核医師・医学者のつどい元代表世話人

一塚 保：れとろぎやらりい柳心庵 代表
司会者 永山孝一：金沢建築とまちづくり研究所会長

……（前号からの続き）

蒞 ドイツが被害を与えた人々、他民族にたいする国家賠償についてはどうなのですか。

一塚 個人レベルの反省とは別に、国としてのドイツも日本と同様、国家賠償については抵抗したのですが、奇妙なことに最も酷い迫害を受けたユダヤ人に対しては特別で、連邦政府は個人補償まで行いました。この点は日本と異なる点です。ただ、これについては、ユダヤ系アメリカ人による米国を背景とした政治圧力や、アメリカが擁護してきたイスラエルからの強い圧力との関係は明瞭ではないでしょうか。

そして、実はこのあたりが以下に述べるドイツ人自身による戦争総括と旧戦勝国各国

とのものとで微妙に齟齬する部分であり、戦争責任の範囲についての最もセンシティブな部分でもありません。

しかしながら、ニュルンベルク裁判を経て冷戦に向かう頃は、日本もドイツも政治状況の変化が始まりました。戦犯については処分が次第に軽くなってゆきます。

それと、例えば戦時科学者のように軍事的な応用技術を持つ者や、一部の諜報機関の連中は戦争犯罪責任を追及されず、そのまま連邦政府や旧敵国が雇ったりしています。いわゆる司法取引というやつです。

これらは国際政治というものがいかに不条理で破廉恥であるかを示すものでしょう。**勅** ニュルンベルグの裁判判決に従って、戦争責任について法律で明文化しているわけでしょう。

一塚 特別法で立法されているものではなく、あくまで刑法上の謀殺罪という規定での追求ということになっているようです。実体上か形式上かはあいまいなところがありますが、一応は親衛隊関係の戦争犯罪だけはいまだに許されないものとされています。逃亡中の重要な戦犯には時効が停止されています。

その一方、国防軍（一般の陸海空軍）はヒトラーに命令され、仕方なく従っただけという見解が支配的です。現実には、彼らも個別的な戦争犯罪には深く関わっていたので、全く

「シロ」という見解は明らかに事実には反します。ただ、国防軍将校の一部が戦争末期に幾度かヒトラーの暗殺を試みていたこともあって、戦犯以外の国防軍関係者はむしろ愛国者として位置づけられており、一部の軍人は英雄視さえされています。日本でいえば山本五十六海軍元帥みたくなものではないか。そして冷戦期あたりからは起訴された親衛隊員への判決さえどんどん甘くなっていきました。

勅 単純に比較はできないと思いますが、複雑ですね。現在の一般的なドイツ人はどのように考えているのでしょうか。

一塚 私の知っている年配のドイツ人たちはたしかに罪の意識を持っています。

戦争の話は自分からはしたがりません。よく聞いてみると昔ヒトラー・ユーゲントだったとかナチス突撃隊員だったとか、ポロと漏らすことはあります。

永山 私の母方の祖父は足に貫通銃創があり、そこにわらしべを通して掃除していたのを思い出します。それを私に見せながら、旅順の二百三高地で、日露戦争の時に戦功をあげたことを誇りがっていました。私の父の場合は、第九師団で南京や上海に行っていたのですが、たまたま同僚が腹痛を起こして介抱しなくてはならなかったので、「その日は行かなかった」とだけ語っていました。父は戦果を誇るようなことは言わなかったので

す。祖父の日露戦争の話と、父の第二次大戦のときの話の違いが印象に残っています。父と同じ年代でもいろいろな方がいて、大陸まで攻め込んで戦果をあげたと自慢する人もいます。同じ戦争を経験してもそうです。

一塚 ドイツでも旧軍の将校で位の高い鉄十字勲章を受けた人などは戦友クラブを作って戦争の自慢話をしたりすることはあるようです。日本の戦友会みたいなものでね。

永山 私の家内は満州の新京（新京特別市で満州国の首都。現在の中華人民共和国吉林省長春市、以下同じ）で生まれたのですが、生後三カ月にならないときに父親が徴兵され、そのままシベリアで行方不明になりました。死亡通知は来たけれども墓がどこにあるかわからない。私の従兄がソ連に旅行した時に当地の石を拾ってきてもらって、それをお墓に入れてあるような状態です。満州から母親に抱えられて日本までたどり着いたというような話。その一方で、満州では許されるべきでないような戦争犯罪が行われていたということ。これを「戦争と医療―医師たちの十五年戦争―」（かもがわ出版二〇〇〇年九月）などで読むと、本当に複雑な思いがします。

（次号につづく）

《非核平和・行事予定》

- ・六月十八日(土)～二四日(金) 平和行進・県内加賀路(行進予定は前号をご覧下さい)
- ・六月二十五日(土)十時～十二時：非核・石川の会『総会と記念講演』近江町いちば館四階研修室
- ・六月二十五日(土)十三時～十七時：県社会保険推進協議会総会と講演『東日本大震災で問われたこと』日野秀逸氏・松ヶ枝福祉館
- ・七月一日(金)一八時半：映画「荒木栄の歌が聞こえる」試写会(八十五分)&準備会・市民芸術村里山の家
- ・七月六日(水)十二時半：街頭署名・Mザ前
- ・七月六日(水)十五時：平和行進実行委員会・県労連
- ・七月九日(土)：金沢北部革新懇『原発問題学習会』講師飯田克平氏
- ・七月九日(土)：輪島革新懇総会と講演『原発問題を考える』講師児玉一八氏
- ・七月十六日(土)十時～十二時半：反核・平和おりづる市民のつどい『秋葉忠利前広島市長の講演、アニメ上映「つるにのって」・県教育会館
- ・七月十七日(日)十三時：国賠同盟石川総会・金沢勤労者プラザ
- ・七月十八日(月)：平和委員会・平和の旅富山(日帰り)
- ・七月二十三日(土)十三時半～十六時半：石川

革新懇総会と講演『不当解雇撤回・「安全優先」の日本航空を目指して』内田妙子・

ITビジネスプラザ武蔵

・八月四日(木)～十七日(水)：原爆と人間展・石川県庁一九階展望ロビー

・八月六日(土)：広島原爆の日

十二時半 街頭署名・Mザ前

・八月七日(日)十三時～十六時：みんなであたおう&横井久美子コンサート・金沢市民芸術村ミュージック工房

・八月七日(日)～九日(火)：原水爆禁止世界大会(長崎市)

・八月九日(火)：長崎原爆の日

・八月十五日(月)：終戦の日

・八月二十一日(日)：九条の会北陸地区交流会

・九月六日(火)十二時半：街頭署名・Mザ前

・九月八日(木)：安保調印の日・平和の講演会(仮題)

・十月六日(木)十二時半：街頭署名・Mザ前

・十一月九日(水)十二時半：街頭署名・Mザ前

・十一月十九日(土)：九条の会全国交流集会・東京

・十一月二十五日(金)～二十七日(日)：日本平和大会・沖縄

・十二月十八日(日)午後：映画「荒木栄の歌が聞こえる」を観て歌おう！うたごえの集い・金沢市民芸術村パフォーミングスクエア

《編集後記》

国民投票でイタリア国民は原発再開を拒否。伊首相に「原発よサヨウナラ」と言わしめた。ドイツも脱原発を決定。たまたまかつての枢軸国。日本も見做ってはどうか。(ま)

私は「人と風土からの発想」を自らの職能の理念と心得ていますが、この背景には「風土」(広辞苑では、「土地の状態、すなわち、気候・地味など」)についての理解があります。この「風土」―自然・地理―の理解における科学性や「人間」―歴史・社会―の理解における科学性など、『ことばの意味』を正しく理解することがとくに大切であると思います。この理解の仕方は会報『非核いしかわ』の編集にも深く関わってくると思っています。

私たちの会報が、会員の手によって育まれることが大切だと思います。会報『非核いしかわ』の伝える情報が、私達の現実生活を向上させる立場から会員の手によって発信されることにこそ意味があると感じています。報告・エッセイ・詩・マンガ……多様なスタイルで職場に、地域に、お茶の間に、話題を提供する身近な会報でありたいと願っています。

そのような会報を目指す上で編集委員会は船の漕ぎ手をとめますが、私たちの周りの、お隣りにも知人・友人へも、非核の会の情報が滲み出して広がってゆくような会報に成長するよう願っています。(な)